

2019 年度日本認知言語学会奨励賞授賞者報告書

2019 年 8 月 24 日

日本認知言語学会
会員各位

日本認知言語学会
会長 辻 幸夫
日本認知言語学会奨励賞選考委員会
委員長 鷺見幸美
委員 楠見 孝
委員 濱田英人
委員 宮浦国江

日本認知言語学会第 20 回全国大会における学会奨励賞選考結果につき、下記の通り報告いたします。
なお、授賞者の並び順は 50 音順です。

記

授賞者名（所属）：後藤秀貴氏（大阪大学 [院]）

授賞発表名：精神作用を表す身体部位詞の史的展開 - <胸>と<頭>を中心に -

授賞理由：

本発表は、身体部位詞の意味拡張の基盤を歴史的な観点から明らかにしようとしたものである。メトニミ的な拡張が先行し、メタファー的な拡張が遅れる傾向があるという興味深い観察がされている。身体部位詞はメジャーなテーマであるが、通時的視点を取り入れることで、新たな研究の展開を示しており、今後の発展が期待できる研究であるという点が審査員から高く評価された。

以上のことにより、日本認知言語学会奨励賞に相応しいものであると判断した。

授賞者名（所属）：森下裕三氏（環太平洋大学）

授賞発表名：英語の移動構文における着点志向性

授賞理由：

本発表は、主体移動構文と使役移動構文の着点志向性の違いをコーパスを使って実証的に示し、さらにその発見に基づいて構文の継承関係について問題提起をしたものである。問題設定、調査の手法、結果の考察、いずれも的確であると高く評価された。移動表現研究および構文理論を発展させるものであり、理論的にも意義が認められる。また、プレゼンテーションがわかりやすく、質疑応答が明快であるという点で優れた発表であるという評価も得た。

以上のことにより、日本認知言語学会奨励賞に相応しいものであると判断した。

以上